

「子どもと作ろう種から育てる未来の森」

2008年に北海道で自然林の再生研究を続けている岡村俊邦北海道科学大学名誉教授の提案する生体的混撒・混植法に出会いました。

生体的混撒・混植法とは種子採取から苗づくり、植樹、成長記録に至るまでを自然のプロセスに沿って行う自然林の再生方法です。

実際の活動の場として2009年、実践の場として札幌市の許可を得て市内西区五天山公園の自然再生ゾーンで活動を開始しました。当初岡村氏が近隣の原生種から発芽させた苗をみなで植えましたが、現在は周辺の森から種子を採取して自分たちで苗を育て植えるようになりました。「子供と作ろう種から育てる未来の森」の最大の特徴は、種を拾い、苗を作るところにあります。

この活動は計画地周辺で、できるだけ多種の原生種の種子を採取し、苗床で発芽させ苗木を作り、大地に戻し、生物多様性に富んだ自然森の再生を目指しています。